

子どもたちは日々心も体も成長します。それを見守る親御さんたちは、その成長を時に心配したり悩んだりしながらも、楽しみに見守られていることと思います。そこで今回から、3回シリーズで、子どもの発達について皆様にお伝えしていこうと思います。(臨床心理士 田所)



## 子どもの発達とは？

子どもの発達とは、環境との相互作用の中で、豊かな心や、意欲、態度を身につけ、新たな能力を獲得していく過程のことです。身体的発達、情緒的発達、知的発達など、子どもの成長には様々な側面がありますが、お母さんなど身近な人との関わりの中で様々な知識や技術を身につけるとともに人への信頼感を形成していきます。もちろん、子どもはひとりひとり違った個性を持っていて、その成長には個人差がある一方、子どもの発達の道筋や順序においては、共通して見られる特徴もあります。今回はそういった子どもたちの発達について、年齢ごとに特徴的な部分を紹介します。

**1 歳の発達** 満1歳のお誕生日ごろには、体重は生まれたときの3倍、身長も1.5倍ぐらいにまで成長するのが一般的です。体重よりも身長の伸びが増えて、体つきは一段とスマートになっていきます。また満1歳では、一人で歩ける子どもは半分ぐらいで、ほとんどの子が1歳3カ月頃までに歩けるようになります。最初はバランスを保つため、左右の足幅を広くとり、手をあげてバンザイの姿勢で歩きますが、徐々に手が降りて足幅が狭くなります。言葉に関しても言葉の理解が進み、感情表現も豊かになってきます。気に入らないとかんしゃくを起こすこともあって扱いつづらなくなったように感じるかもしれませんが、これも心の発達過程です。早い子では、「マンマ、ナイ」などの2語文が出てくる場合もあります。まだ単語が1つ、2つしか出てこず、2歳になって急におしゃべりを始める子もいます。

(目安) 一人で歩ける、単語が出る、簡単な指示を理解する、など

**2 歳の発達** 2歳という年齢は、刺激の与え方・興味の持たせ方・ほめ方・しかり方・諭し方・生活リズムのつけ方・言語の刺激・数や形の刺激・運動やリズム・巧緻性・絵画・社会性の芽生え・自立への一歩、などさまざまな原点がここにあり、とても重要な時期といえます。自分の思う通りにならないとイヤイヤをしたり、機嫌を損ねて大泣きしたりといったことも出てきます。これは自我の目覚めで、心が成長したことの証しです。そして運動の能力や知恵はどんどんアップしていきませんが、その半面、ママへの甘えもまだまだ強いのがこの時期です。ゆったりとかまえ、子どもの甘えをしっかり受け止めながら、一方で自立の方向へ導くということが周囲の大人に求められます。

(目安) 両足飛びをする、2語分を話す、ぐるぐる書きをする、など

**3 歳の発達** 3歳という年齢は、2歳からのステップアップとして、また4歳へと移行をしていく時期です。例えば、「心の成長」の発達段階における3歳の特徴としては、2歳頃に訪れる第一次反抗期で「イヤイヤ」の時期を過ぎた頃から、自分と他人との区別がはっきりとできるようになった証として、「恥ずかしい」と思う心が急激に発達してきます。初めて会うひとや子どもに照れてお母さんの後ろへ隠れてしまったり、はにかんでうつむいたり、そっぽを向いてしまうこともあります。この頃から、社会性の一つでもある「持ち物を他人に貸せるようになる」などの心の成長が見られるようになるのです。

(目安) 片足ケンケンをする、顔らしいものを書く、色の識別ができる、など

**4 歳の発達** 4歳という年齢は自発性・意欲・協調性・自己コントロール力・我慢する力・競争心・人に対する思いやりなどが少しずつ成長していく時期です。友達関係の中から自分のプライドや競争心も芽生え、頑張る・あきらめない・譲るなどの複雑な気持ちの変化も経験していきます。なんでも自分でしないと気がすまない、自分の意見をなんとしても通そうといろいろな方法を考える、嬉しい・悲しい・悔しいなどの感情をストレートに表現するなどの様子も「心の成長」の証です。

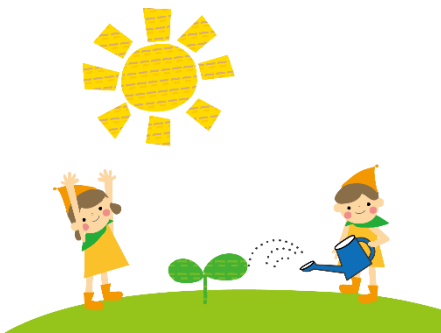
(目安) でんぐり返しをする、ハサミでものを切る、数を理解し始める、など

**5 歳の発達** 5歳という年齢は、自立心が確立し後半に近づくにつれ、自我の芽生えから突入した第一次反抗期も終息を向かえ「心の安定期」が訪れます。友達関係も充実し喧嘩もありますが、みんなで仲良く遊ぶ楽しさをたくさん経験していきます。また、少しの我慢ならできるようになり、自己コントロール力や協調性が著しく発達していきます。また、5歳で大きく変化することのひとつに、遊びがあります。遊びにも単なる遊びと幼児教育的な遊びがありますが、ルールを作って遊ぶことが楽しくなり、今までしていた遊びにも独自のルールや決め事を作っていきます。

(目安) スキップができる、折り紙で飛行機などを折る、文字が読める、など

**6 歳の発達** 6歳という年齢は、幼児期の集大成となり、心の成長はもとより、興味・やる気を持ち、知的好奇心や向上心を発し、自発的に考え、考える事を楽しめる時期に入っていく1年です。生活面においては、自分のことは自分でできるようになり、時間という人ならではの感覚もついてきますから、時計を見て行動をしてゆくようにもなってきます。また、友達関係もますます充実していきます。ルールを相談して決めて遊ぶことも上手になり、その場の状況判断能力も育ってきます。会話力も発達してきますから、会話をする相手に合わせて話をすることもできるようになります。

(目安) ゴマ付きの二輪車に乗る、思ったものを絵に書く、時間が分かり始める、など



以上はあくまでも目安です。子どもの発達は個人差が大きいものですので、基本的には焦らず楽しみに成長を見守っていくとよいでしょう。それでも気になることがある場合には、市の相談機関や医療機関で専門の先生に相談してみてもはいかがでしょうか。気になる行動があった時に、周りにいる大人がしっかりと子どもを見つめ、その子に合わせた教育を見極めていくことが大切です。